

# 外国人技能実習生を活かした法人経営 株式会社 カマタ農園(指宿市山川)



## 農業を始めるまで

鎌田さんは、高校卒業と同時に、実家の建設業に12年間従事していました。人にとって最も大切な「食」に関わる仕事がしたいという思いから、平成23年に指宿市山川で就農しました。

## 経営の推移

### 経営開始

就農当初借りられた農地は30aで、地域で栽培者が多いオクラ、スナップエンドウを作付けし、初年度の売上は100万円程度でした。国の補助事業も積極的に活用し、次世代人材投資資金は、トラクタの導入など、将来の経営基盤づくりのための資金として活用しました。

### 経営開始2〜4年目

指宿市は、新規で優良農地を確保することが難しく、農業委員会に斡旋された耕作放棄地を自ら再生し、農地を確保してきました。それに伴い、葉物野菜中心に品目を転換し、キャベツ4ha、レタス5.5haまで規模拡大しました。

### 就農3年目には、雇用確保対策、補助事業・各種施策の活用により、利便な法人化の検討を進め、平成26年に株式会社「カマタ農園」を設立しました。さらに、地域の若手農業者

(農業法人2戸と個人農家2戸)で、共同出荷組織「いぶすき愛菜家グループ」を結成し、大手飲食チェーンとの契約栽培による販路拡大やグループ内の従業員の技術研修を定期的に開催し、人材の確保・育成に努めました。

### 経営開始5〜7年目

経営面積24haで、キャベツ、レタス、オクラなど約15種類の野菜を生産し、売上は8千万円まで向上しました。法人化はしましたが、規模拡大を進める中で、ハローワークに求人募集しても求職者は少なく、就業しても定着しないといった課題に直面しました。

## 外国人技能実習生の受入れ

### 受入者数

近隣の大型露地野菜法人に監理団体を紹介してもらい、平成27年に初めて外国人技能実習生2名を受け入れました。現在は、従業員5名(正社員4名、パート1名)と、フィリピン人の技能実習生7名(技能実習2号6名、技能実習3号1名)を受け入れて

います。

## 受入れに係る経費

外国人技能実習生の採用に当たっては、自ら実習生の生活風景を確認するのが良いが、面接に立ち会うための渡航費用は約15万円かかります。また、実習生一人当たり、日本到着までの入国費用、研修費用が約35万円かかります。

受け入れ後の一人一月当たりの人件費は、賃金、各種保険、監理団体への組合費を含め約22万円です。

なお、受け入れにかかる金額や内容は様々で、サポート体制の充実した監理団体を選定すること



現地フィリピンでの面接風景

が重要です。

## 受け入れるための環境整備

技能実習生に対しては、宿泊場所の提供が必要で、日々ストレスなく生活が送れるよう1人部屋を用意しています。日用品や冷蔵庫、洗濯機、テレビを整備し、特に家電製品については、扱い方を詳しく説明しています。

また、就業規則以外の生活面では、実習生同士でルールを決めて、快適な研修生活が送れるよう工夫しています。



みんなで昼食を囲み歓談

日本の生活に馴染むために

円滑なコミュニケーションを図るため、日本語教育には力を入れています。実習生の日記は、鎌田さん自ら赤ペンでチェックします。

また、地域益踊りへの参加や、地元保育園児を招いたトウモロコシ収穫体験など、積極的に実習生と地域住民との交流を図っています。

## 技能実習生を育成するために

技能実習生3号には、リーダーとして後輩への指導を任せ、賃金も高く設定しています。また、技能検定合格者には、努力賞として豪華商品を贈呈しています。誕生



地元保育園児との交流

日やクリスマスといった記念日にプレゼントを渡すなど、感謝の気持ちも伝えることも大

切にしています。

## 今後の目標について

鎌田さんは、就農して今年で10年の節目を迎えます。経営面積は、キャベツ20ha、レタス14ha、オクラ1.1ha、その他野菜20haの大規模経営体へ発展しました。

現在も、より安心・安全な野菜づくりを目指し、自社で開発した有機肥料の改良や、減農薬栽培による品質向上に努めています。また、SDGsの一環として、周囲の農業者と共に、過剰に作り過ぎた野菜や規格外の野菜の販売に取り組んでいます。

今後は、外国人技能実習生を15人まで増やし、生産から一部加工までの一貫体制を目標としています。

このように、カマタ農園は、地域農業を牽引する農業法人として、今後益々の活躍が期待されています。

■紹介 南薩地域振興局農政普及課 指宿市十二町駐在

山下 公之